

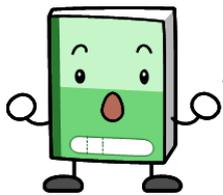
## 「指導と評価の一体化」のための学習評価（総合的な学習の時間のポイント）【R2 NEW】



- 文部科学省国立教育政策研究所発行の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」冊子版では、知識・技能における評価の観点について、「いつでも、なめらかに安定して素早く発揮することが可能な技能の獲得」が「**自在に活用することが可能な技能の獲得**」という文言に改訂され、単元例もより具体的になりました。

そこで、**学習評価のポイントも冊子版に合わせて改訂し、「自在に活用することが可能な技能の獲得」の評価に関する行動観察評価を加えました。**

小学校・中学校共通の参考事例となっています。



- 総合的な学習の時間の第一の目標の趣旨を踏まえて、地域や学校、児童の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているため、各教科等のように「どの学年で何を指導するのか」という内容は明示されていません。

☞今回の改訂において、総合的な学習の時間については、内容の設定に際し、「**目標を実現するにふさわしい探究課題**」、「**探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力**」の二つを定めることが示されました。

**探究課題** 目標の実現に向けて、児童が「何について学ぶのか」を表したもの

**具体的な資質・能力**

各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたもの

### 【知識・技能】

\* 探究的な学習の過程を通して得られた「知識及び技能」を既存の「知識及び技能」と **関連付けて統合された概念として形成していく過程**に着目する。

\* 評価規準と照らし合わせて、学習や指導の改善を図る。

#### 評価にあたって重要なこと

- ・ 探究課題で扱うテーマから考えられる概念から学習活動を想定して具体化する。
- ・ 学習活動を進める中で児童が得るであろう個別的・具体的な知識や技能を参考にする。

これらをもとに、「**子どもたちにどのような概念の形成を期待するのか**」を明示することが重要。

### 【思考・判断・表現】

\* 探究の過程における **各学習活動の目的に即して、「知識や技能」を適切に活用する姿やその過程**に着目する。

\* 評価規準と照らし合わせて、学習や指導の改善を図る。

#### 評価にあたって重要なこと

- ・ 児童が身に付けた「**考えるための技法**」を**適切に活用しているかどうか**を評価する。（選択・活用が適切か）
- ・ 探究課題の特質から想定される **問題状況**、収集が可能な**情報の性質**、整理・分析において **有効な観点**、まとめ・表現において想定される **相手や目的**などを十分に検討する。

☞児童が**相手や目的に応じて**どのような「知識及び技能」や、各種の「考えるための技法」等を**選択し、活用**できるかということを想定することが必要。

## 【主体的に学習に取り組む態度】

### \*粘り強い取組を行おうとする側面

自らの学びの過程を振り返ることを通して、更により深く知りたいことや、自分にとって価値のあることは何かといったことを考えようとする姿（**自らの問いを問い続けていく姿・課題を更新する姿**）

### \*自らの学習を調整しようとする側面

他者との協働を通し、自らの学びを振り返りながら、課題解決に向けて見通しをもって、自ら計画を立てたり、適切な方法を選択したりするといったことに表れる積極的に活動に取り組む姿（**次への見通しをもつ姿・自己の生き方を考える姿・試行錯誤を繰り返す姿**）

### 評価にあたって重要なこと

- ・ **自分自身に関すること及び他者や社会に関することの両方の視点**を踏まえることが求められる。
- ・ 活動の見通しをもつ場面や振り返りの場面の観察や作文などを通して、**自らの課題を更新**しているかどうかや、自らの学習活動を適切に把握し、**見通しをもって**学習を進めようとしているかを見とることが大切。

「知識・技能」の評価を行う事例として紹介します。

#### 単元名

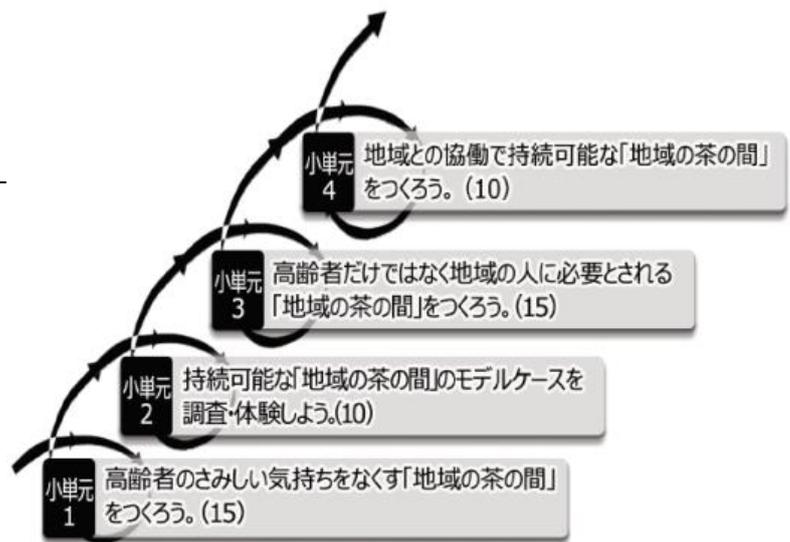
地域の絆を再生しよう 全50時間

#### 内容のまとめ

第6学年（福祉）

本単元は、**全体計画に定めた探究課題「身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々」を踏まえて構想した単元**である。地域住民の高齢化と核家族化により、「今日一日誰とも話をしなかった」「気が付いたらテレビに話しかけていた」といったさみしさを抱えながら孤独に暮らす高齢者が増加しているという背景があった。

本単元は、児童がこうした状況を問題だと捉え、**高齢者の孤独の解消に向けて、地域の誰もが集い交流できる「地域の茶の間」を創設することを学習課題として設定し、その解決に向けて取り組んだもの**である。



## 1 単元（題材）の目標

高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動を通して、高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いに**気づき**、「地域の人々が集い交流できる場」の在り方について**考え**るとともに、世代を越えて交流していくことの大切さを感じながら生活していくことができる**ようにする**。

中核となる学習活動をもとに、**どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのか**を明確にし、以下のように、**構造的**に示します。

例「**○○○**を通して、**△△△**に**気づき**、**□□□**を**考え**るとともに、**◇◇◇**しようとする。」

探究課題

知・技

思・判・表

人間性等

目標に示された資質・能力を踏まえ、**目指すべき子供の姿を具体的に想定する。**

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「地域の茶の間」は、地域の人と 思いを共有し協働してつくるこ とで、持続可能なものとなる ことを理解している。 ②日常的に気持ちのよい挨拶をし たり、分かりやすい話し方をし たりして、高齢者に適切に関わっ ている。 ③高齢者への接し方など自分の行 動の変容は、高齢者とその暮らし について探究的に学んだこと による成果であると気付いている。	①地域の高齢者とその暮らしに ついて、理想との隔たりから課 題を設定し、解決に向けて自分 にできることを具体的に考えて いる。 ②持続可能な「地域の茶の間」を つくるために必要な情報を取捨 選択したり、複数の情報を比較 したり関係付けたりしながら解 決に向けて考えている。 ③伝える相手や目的に応じて、自 分の考えをまとめ、適切な方法 で表現している。	①地域の茶の間の体験を通して得 た知識や自分と違う友達の考え を生かしながら、協働して課題解 決に取り組もうとしている。 ②題解決の状況を振り返り、あきら めずに高齢者の孤独の解消に向 けて取り組もうとしている。

- ① 概念的な知識の獲得
- ② 自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③ 探究的な学習のよさの理解

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

- ① 自己理解・他者理解
- ② 主体性・協働性
- ③ 将来展望・社会参画

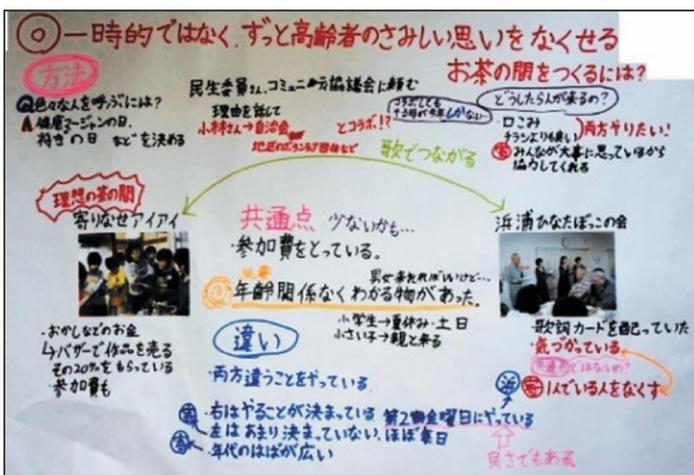
単元の評価規準の指導計画の位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、**子供の姿となって表れやすく、全ての子供を見とりやすい場面を選定すること**が大切です

## 3 指導と評価の計画

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備 考
高齢者のさみしい 気持ちをなくす 「地域の茶の間」 をつくろう (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気付き、理想と現実の隔たりから学級全員で取り組む課題を設定する。</li> <li>・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。</li> <li>・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら、複数回の「地域の茶の間」を開催する。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容</li> <li>・作文シート</li> </ul>
持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。</li> <li>・「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。</li> </ul>			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容</li> <li>・作文シート</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いについて考える。</li> </ul>		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容</li> <li>・作文シート</li> </ul>
<b>評価場面 ア</b> ①概念的な知識の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方に気付く。</li> </ul>	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容</li> <li>・作文シート</li> </ul>
	<b>具体的事例①「知識・技能①」</b>				

<p>高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくらう（12時間）</p> <p><b>評価場面 イ</b> ②自在に活用することが可能な技能の獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な「地域の茶の間」の実現に向け、必要な情報を集め、場所や日時、プログラム等の計画を立てる。</li> <li>学習課題に照らし、持続可能な「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。</li> </ul> <p>具体的事例②「知識・技能②」</p>	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文シート</li> <li>行動観察</li> </ul>
<p>地域との協働で持続可能な「地域の茶の間」をつくらう（13時間）</p> <p><b>評価場面 ウ</b> ③探究的な学習のよさの理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動で課題が解決されたかを振り返るとともに、地域の誰と協働すればよいかを考える。</li> <li>地域の人に、協働で持続可能な「地域の茶の間」を継続開催することを働きかける。</li> <li>これまでの活動を通しての自分の変容を振り返り、作文にまとめる。</li> </ul> <p>具体的事例③「知識・技能③」</p>	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容</li> <li>作文シート</li> </ul>
		③	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文内容</li> <li>作文シート</li> </ul>
		③	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文シート</li> </ul>

【評価場面 ア（①概念的な知識の獲得）について】



二つの「地域の茶の間」の取組の共通点と相違点を可視化し、収集した情報を整理・分析。

学習課題解決のために大切なことは何かを問い、話し合う言語活動を設定。

＜児童の作文シートより＞  
私は、今まで、高齢者がどういふふうにと和めるかを考えることが大切だと思っていました。今日の話合いで「地域の茶の間」を地域の人と私たちが協力してつくることも大切だと気付きました。「地域の茶の間」を地域の人と一緒にやるには、まず、地域の人に必要とされないといけないと思います。そのために、地域の人が必要とする「茶の間」について取材をして、自分たちができることを考えたいです。

作文の記述と関係図から、「（高齢者の立場に立って）どういふふうにと和めるだろうかを考えることが大切だ」と考えていた児童が、話し合いを通して得た他の児童の考えや意見を聞いて、高齢者だけではなく地域の人との協働の必要性を理解した。

概念的知識として「高齢者の暮らしを支える人々の取組や思いを基に、『地域の茶の間』は、地域の人と思いを共有し、協働でつくることで持続可能なものになること」を形成していると評価できる。

## 【評価場面 イ（②自在に活用することが可能な技能の獲得）について】

日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者に適切に関わっている。

＜行動観察より＞

当初、当該児童はどの高齢者に対しても同じ挨拶をするなど形式的でぎこちない接し方だったが、「地域の茶の間」を重ねていくにつれて、これまでの関わりに基づいて「こんにちは。先日は野菜の間引き方について教えていただきありがとうございました。おかげで、教材園の野菜がみるみる育つようになりました。」と相手に応じて挨拶の内容を工夫していた。また、他の高齢者に対しては、相手の表情で伝わり方を判断しながら、声の速さや大きさを変えた話し方をしていた。



活動場面において教師は、初対面の高齢者とも自分から話しかけて会話をしたり、昔の遊びをしたりする児童の姿について、前次で行った「高齢者のさみしい気持ちをなくす『地域の茶の間』をつくろう」での姿と比較しながら行動観察をした。

👉 自在に活用することが可能な技能の獲得として行動観察の結果から、児童が特定の場面や状況だけではなく様々な状況で活用可能な技能として他者との適切な関わり方を身に付けていると評価することができる。

## 【評価場面 ウ（③探究的な学習のよさの理解）について】

＜児童の作文シートより＞

以前は人見知りで、近所のお年寄りとあいさつするだけで顔をそらしていました。けれど、今は年代が違うお年寄りにも顔をそらさないであいさつができるようになりました。お年寄りの趣味や好きなことがお茶の間の学習をして分かり、お年寄りと話すことが多くなりました。

次に、（県外で離れて暮らす）祖父母とのかかわり方です。以前は、祖父母の家に行っても、自分の両親と話をすることが多かったです。でも、お年寄りのさみしさなどが分かってから自然と話せるようになりました。

作文の記述 … それまでは十分にできていなかった地域の高齢者や祖父母と、より自然で豊かにかかわれるようになったことを自己の成長として実感していることを見とることができる。

さらに、このような成長の背景には、本単元で高齢者とその暮らしについて学んだことがあることも自覚していることが、「地域の茶の間の学習をして」と記述していることから捉えることができる。

行動観察 … 初対面の高齢者とも自分から会話、昔の遊びをする姿などを捉えることができた。モデルケースの調査・見学において、持続する工夫について、必要な情報が得られるまで粘り強く聞き取る姿も見られた。

👉 学んだことが自分の生活と深く関わっていることに気付き、自己の成長を感じ、自ら探究的な学習を進めるようになったと解釈できる。この姿から、探究的な学習のよさを理解していると評価できる。